

# ロシア謀略機関「GRU」の悪行三昧

ロシアの連邦軍情報機関「参謀本部情報総局」(通称「GRU」)が、旧ソ連の伝説的なスパイ機関「国家保安委員会(KGB)」の後継組織とどまらない謀略機関として、世界各地で暴れまわっている。

二〇一六年の米大統領選介入事件で、主導的な役割を果たしたほ

## 世界戦略の中で「闇工作」を担当

米欧の情報関係者を驚かせたのは、七月中旬にロバート・モラー特別検察官が連邦陪審に起訴した、十二人の名前だった。特別検

REUTERS/AP/ARND



旧ソ連時代からの略称がそのまま通用している。

高度なハッキング技術を駆使した対外工作となれば、KGBの後継である「連邦保安庁(FSB)」と「対外情報庁(SVR)」の専門

か、英国で神経剤「ノビチョク」を使った事件での関与も疑われている。このほか、クリミア半島併合やシリア内戦でもGRU暗躍が確認されており、KGB出身のウラジーミル・プーチン大統領に

って、今や最も戦闘力の高い「秘密兵器」に浮上している。

疑いで特定された全員が、GRUの所属だったからだ。GRUは一〇年以降、別の名称になったが、

旧ソ連時代からの略称がそのまま通用している。

領域のはず。だが、特別検察官は十二人のうち九人がGRU「26165部隊」、三人が同「74455部隊」の所属であることまで突き止めた。

前者は、旧ソ連軍時代に通信情報解析を担った「GRU特務第八十五センター」と同じ住所にあることから、この機関の後継として、ハッキングを担当していると理解できる。この住所は、クレムリンから車で二十分ほどのところにある、公式にはロシア軍兵舎の所在地でもある。

起訴状の筆頭に名前がある「ビクトル・ネットウイシユコ」は、数学や通信技術に関する専門的論文の著者であり、暗号解読及び暗号作りのエキスパートとして、部隊を率いている模様だ。ハッカーの世界では、26165部隊について、「三分以内にどんな暗号も解読し、再暗号化することができる」

という伝説がある。

よりナゾに包まれているのは74455部隊だが、ある在米情報筋によると、「ウクライナ紛争でも暗躍している可能性がある」という。拠点と見られる住所が複数あり、そのうちの二つが、オレグ・イワンニコフという名のGRU工作員の勤務先と一致した。

このイワンニコフは、英国のウエブリサーチ・リソース「ベリンゲキヤット」によって、一四年のマレーシア航空機17便(MH17)撃墜に関与したことが特定された。

彼は、ウクライナの「親露派武装勢力」に、ミサイル防空システム「ブーク」を供給した工作員で、これによってMH17便は撃墜され、乗員乗客二百九十八人が死亡したのである。

ロシア側はもちろん、撃墜事件への関与を一切否定しているものの、ウクライナ紛争では「特殊工

クリミア半島併合時に詳細な現地情報収集と謀略を駆使した「ハイブリッド戦争」を成功させて、一気に汚名を返上した」と言う。

ウクライナ政府や米欧軍事関係者の間では、クリミアと東部ウクライナに突如現れた「民兵」または「親露派武装勢力」なるものの実体は、GRUのエリート部隊のメンバーという見方が定着している。ドネツク、ルハンスクに誕生した「人民共和国」で、政治や諜報を担当するのはもっぱら現職のGRUか、訓練

を受けたOBである。

GRUは新生ソ連の軍事情報機関として、ロシア革命の後に創設された。

KGB史研究者の米国人、ジョン・バロン氏(故人)の一九七〇年代の著作によると、「KGBの承認なしには、GRUは一人も雇うことができなかった」とされ、ソ

連時代のKGBとの力関係は明白だった。スマートなKGBスパイに対して、GRUは泥臭い軍人出身者で構成される。KGBはGRUのことを、「長靴」と呼んで馬鹿にしていた。

KGB出身のプーチン大統領は、スパイ機関を自ら操縦するのを好み、GRUはプーチン時代に一気に独立性を高めた。もともと機構上は、世界中の軍事情報を独占することができ、在日大使館を含め、ソ連およびロシアの駐在武官は全員がGRU所属の軍事スパイである。プーチン大統領が、KGB後継組織だけでなく、GRUにも忠誠を競わせることで、スパイ組織の支配を強めたのは確実だ。

## ノビチョク事件など暗殺の常習犯

米大統領選介入とともに、浮上しているのが、英国で起きた二件のノビチョク事件(一人死亡)にもGRUが関与しているとの疑いだ。GRUが関与しているとの疑いだ。三月に南部ソールズベリーで起きた事件では、二重スパイだったセルゲイ・スクリパルGRU元大佐と彼の長女、ユリアさんが一時重体となった。

さらにGRUの存在感を高めたのが、一三年三月にロシア軍内に新設された、「特殊作戦軍司令部」(KSSO)。ロシア軍のトップがセルゲイ・シヨイグ国防相とワレリー・ゲラシモフ参謀総長のコンビになって間もない頃の決定で、GRU指揮下の特殊部隊など、謀略工作やハイブリッド戦争ができる精鋭を統合した。

機密性の高いKSSOは一千人足らずの小所帯で、GRUが実質的に指揮権を握っていると見られる。クリミア半島併合に加えて、後述するように、シリアでも暗躍している。プーチン政権の世界戦略の中で、闇工作の部分を引き受ける部隊と見られている。

GRUにすれば、スクリパル元大佐の裏切りは、ぬぐいがたい組織の恥であることから、当初から「GRU工作説」がささやかれていた。それが、七月中旬になって、英米両国のメディアで「監視カメラの解析によって、GRU工作員による犯行だったことが分かった」との報道があり、GRU犯行



作をほぼ独占している」(大手紙モスクワ特派員)とされるほど、GRUの関与が強い。

在米情報筋は、「GRUは、〇八年のジョージア(グルジア)戦争の際に適切に対応できなかったとして、プーチン氏(当時は首相)の不興を買い、人員と予算を大幅に減らされた時期がある。一四年の

暗殺、秘密工作、ビジネス、なんでもござれの集団(GRU本部で演説するプーチン氏・右と、英国でのノビチョク事件の現場検証、7月6日)

説が再燃した。

一方、第一犯行現場から近いエ  
イムズベリーで七月に女性一人が  
死亡し、そのパートナーの男性が  
重体に陥った事件では、男性の兄  
弟の話として「香水の瓶を拾って  
使った」ことが分かった。第一の  
犯罪に不幸にも巻き込まれた形だ  
が、物的証拠を追うことで犯人特  
定の手がかりは増えた。

暗殺作戦では、旧ユーゴスラビ  
アのモンテネグロで昨年二月、ミ

## 肥え太るロシアの戦争ビジネス

GRUの痕跡は、中東にも及ん  
でいる。特に一五五秋から、ロシ  
ア軍が介入したシリアでは、ロシ  
ア軍に付き従うGRUの諜報活動  
が広がっている。前述のKSSO  
は介入と同時にシリア入りして、  
地上での特殊工作を受け持った。

その上、今年に入って、ロシア  
の民間軍事会社「ヴァグネル」が、  
シリアの戦場に約二千五百人の戦  
闘・工作員を送り込んでいること  
が明らかになった。シリア領内の  
クルド人武装勢力への攻撃を敢行  
するなど、ロシア軍ができない軍  
事作戦や大きな被害を与えられそ

ロ・ジユカノビッチ首相(現大統  
領)を暗殺して、政府転覆を図る  
工作が発覚した。回国検察は、複  
数のGRU工作員が、モンテネグ  
ロの北大西洋条約機構(NATO)  
加盟を阻止するため、セルビア人  
勢力らと共に謀したことを突き止め  
た。

人口六十万人あまりの小国とは  
いえ、数十人で暴力的に政府を倒  
そうという試みは、GRUの膨張  
暴慢ぶりを示す証しだろう。

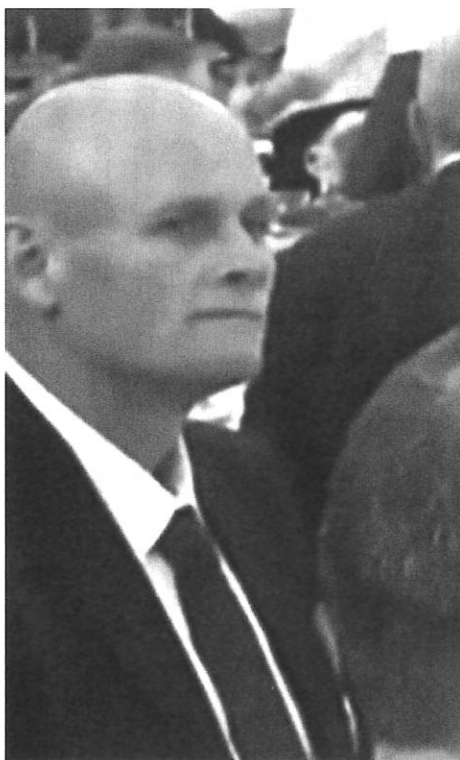
うな戦闘をもつぱら担っている。  
同社については、実質的にはGR  
Uの別働部隊として、シリア国内  
での諜報活動に加わっているとの  
見方が、米政府内で有力だ。

というのも、ヴァグネル社の「創  
設者」ドミトリー・ウトキン氏は、  
GRUの精鋭特殊部隊出身であり、  
同社幹部にもGRU出身者が多い  
からだ。ウトキン氏は、眼窩のく  
ぼんだ、スラブ人独特の風貌で、  
そりあげた頭とともに強烈な存在  
感を放つ人物である。米財務省は、  
シリアではなくウクライナ紛争へ  
の関与で、同社およびウトキン氏

を経済制裁対象リストに加えたが、  
シリアでの活動にも強く苛立ちを  
みせているのは間違いない。  
ヴァグネル社のシリア勤務の報  
酬は、一カ月五千ドル超と、ロシ  
ア企業としてはかなり高額である。  
同社のスポンサーである投資家、  
エウゲニー・プリゴジン氏はク  
レムリン要人御用達の高級レスト  
ランを所有し、「プーチンのシェ  
フ」と呼ばれるほど、大統領に近  
い。レニングラード(現サンクト  
ペテルブルク)出身で、大統領領  
土は同郷。若い頃に窃盗罪で逮捕さ  
れ、懲役九年を務めた後、ホット  
ドッグ事業で成功したというカラ  
フルな経歴の持ち主でもある。

財をなした後に雇った警護員が  
ウトキン氏で、GRUとオリガル  
ヒ(新興財閥)、クレムリンを結ぶ  
三角形がここに出来上がった。G  
RUの諜略や正規軍のできない戦  
闘や工作は、今や戦争ビジネスと  
しても成立しているのだ。

GRUが急速に台頭していると  
は言っても、FSBやSVRが縮  
小しているわけではない。どちら  
も、GRUに負けじと対外諜略活  
動を拡大しており、ロシアの諜略  
は世界中で拡大傾向にある。  
サイバー攻撃、ハイブリッド戦  
争、政治関与、民間軍事会社と、  
プーチン大統領の抱える手札は、  
強くなるばかりなのである。



民間軍事会社を「別働部隊」として使う(ヴァグネル社の創設者、ドミトリー・ウトキン氏・ネット上より)

## Book Reviewing Globe

本から見る地球 連載(41)



The Perfect Weapon  
War, Sabotage, and Fear  
in the Cyber Age  
David E. Sanger  
2018

## サイバー空間の「抑止力」とは

サイバー攻撃を相手国に対する  
強制的手段として使おうとする動  
きが国際政治の現場で秘かに、し  
かし、確実に広がっている。

外交ではらちが明かない。しか  
し、軍事力に訴えるにはリスクが大  
きすぎる。そうしたグレーゾー  
ン状況の中で、サイバー攻撃の効  
用を試そうとする動きである。

イランの核開発に対する米国と  
イスラエルの「オリンピック・ゲ  
ーム」という名のサイバー攻撃作  
戦がその端緒となった。

イランのナタンツのウラン濃縮  
施設(遠心分離機能)をサイバー攻  
撃によってかく乱することで、イ

ランの核開発を遅らせ、核廃棄交  
渉のテーブルに引きずり出すこと  
を目的とした。作戦は成功した。

オリンピック・ゲームによるサ  
ポータージユ作戦をどこよりも真剣  
に凝視していたのが北朝鮮だった。  
北朝鮮の場合、すでに事実上の核  
保有国である。したがって、米国の  
サイバー攻撃は長距離ミサイル  
開発に対して向けられる可能性が  
高いと見ていた。

実際、二〇一三年の北朝鮮の核  
実験のあと、マーティン・デンプ  
シー米統合参謀本部議長は、「サイ  
バー戦争や電子攻撃」を含む「ミ  
サイル発射の急所をつく」方途を

探求するよう指示している。

一六年四月から十月まで、北朝  
鮮が行った八つのムスタン級ミサ  
イル発射実験は一つを除いてすべ  
て失敗した。

八八%の失敗確率である。  
何が起こったのか?

米国が裏で電子系統を混乱させ  
たと見て、金正恩朝鮮労働党委員  
長が調査を命じたという情報が流  
れた。

ところが翌年、北朝鮮は、中距  
離・長距離のミサイルを九発立て  
続けに打ち上げた。失敗は一つだ  
け。八八%の成功確率だった。  
もつとも、米国の軍事上の最大  
の脅威は北朝鮮ではなく中国であ  
る。中国は、AI、ビッグデータ、  
ブロックチェーンなどの分野では  
部分的に米国の先を行く。米国の  
威力が消えつつある。

サイバー空間では抑止力が機能  
していないことを、米国のサイバ  
ー軍司令官が認めている。  
抑止力は、こちらの防衛が強く、  
攻撃しても勝ち目のないことを相  
手に分からせ、攻撃を思いとどま  
らせる力である。相手が「米国を

怖がっていない」状態では、抑止  
はムリだ。

それに、第四次産業革命が進め  
ば進むほど、サイバーの脆弱性は  
幾何級数的に増大する。米国の場  
合、サイバー安全保障の裏打ちの  
前に技術革新が進んだため、脆い。  
それを早くから警告してきたの  
が、オバマ政権時代のジェームズ  
・カートライト統合参謀本部副議  
長だった。「秘密のものによって  
相手を抑止することはできない。

あるかどうか分かなければ、誰  
も怖がらないからだ」。  
サイバー兵器に関する国際ルー  
ルをつくるにしても、米国がどの  
ような能力を持つか、そしてどこ  
までそれを使うかを相手に伝えな  
い限り、それはできない。

しかし、そうした能力をいささ  
かでも示したとたん、相手も同種  
の能力を示そうとするだろう。サ  
イバー攻撃はエスカレートし、実  
際の戦争を引き起こす可能性もあ  
る。どこにも最適解はない。

著者は、ニューヨーク・タイム  
ズ紙の安全保障担当花形記者。  
(J・T・Y)